



小学校で広がる地図活用

帝国書院 広報室



■ 新学習指導要領施行を控えて

「平成23年度から施行される新学習指導要領では地図に関わる学習内容が大幅に増える」という状況を受け、広報室では、施行前の一年間を「より多くの先生方、より多くの子どもたちに地図帳を活用していただく」ための期間と位置づけ、活動してきました。新年度まで3か月を残すのみとなった今、これまでの活動を振り返り、その成果について報告いたします。

「地図帳を活用していただくために必要なことは何か」。私たちがまず考えたのは、そのことでした。結論として導き出したのが、各学校で「子どもたちが4年生になって、初めて地図帳を手にした最初の社会科の授業で、地図帳の基本的な活用法を指導していただく」ということでした。しかし、これには大きな壁がありました。現在の学習指導要領にも新しい学習指導要領にも「地図帳の活用法」という単元は設けられていないのです。

そこで私たちは、4月に冊子『地図帳活用はじめての一步』を作成し、全国の小学校へお送りしました。同冊子には、1時間ないし2時間で「地図帳の基本的な活用法」を指導するための授業展開例を掲載しています。また「こどもと地図」4月号には「鉄は熱いうちに打て！4年生最初の授業で地図帳を使ってみよう」という記事を掲載しました。

■ 広がる地図活用の輪

これらの冊子や記事は、私たちの予想以上に大きな反響をいただきました。全国各地の社会科研究会や公開授業などに参加した際に、先生方から

「4年生最初の社会科の授業でさくいんの使い方を指導し、子どもたちが自由に地名をさがせるようになりました」「これまで、縮尺や土地の高さの指導は苦手だったけれど、スムーズに指導できるようになりました」などの声を多数、いただくことができました。はじめは記載要素の多い地図にとまどっていた子どもたちも、「さくいんを使えば地名がさがせる」「凡例を調べれば記号や地図の色の意味がわかる」ということを実例を示して指導することで、抵抗感がなくなったようです。むしろ地図帳に興味を示し、中には自ら進んで、自分やクラスメイトの名字と同じ地名をさがしたり、旅行した土地のようすを調べてみたりする子どももいるようです。このような学級では、子どもたちの地図帳は赤鉛筆での地名チェックで真っ赤になっています。また、ほぼ例外なく教室内に各都道府県や日本の地図、世界地図が掲示されており、普段から地図に親しませようという先生方の努力が成果に結びついているのだと感じました。



『地図帳活用はじめての一步』

さらにお話を伺うと、学校や社会科研究会などで作成している年間指導計画のなかに「地図帳の活用法の指導」を盛りこんでいるケースが多く、地図活用の輪が確実に広がっていることを実感させられました。

■ 都道府県名学習と地図帳

5月には、冊子『地図帳でとらえる47都道府県』を発売し、新学習指導要領に盛り込まれた「都道府県の名称と位置」の学習における地図帳の活用法を紹介しました。また、「こどもと地図」9月号では「47都道府県をどう教えるか?」という記事を掲載しました。その中で紹介した、弊社のホームページに掲載している「都道府県ポスターと紹介カード」を活用した指導を行い、すでにポスターを完成させて教室に掲示している学級もあります。先生にお話を伺うと、紹介カードをつくる際、各都道府県の「有名なもの」を調べるために子どもたちが熱心に地図帳を見るようになったとのことでした。



『地図帳でとらえる47都道府県』

私たちは、子どもたちが発見した「有名なもの」について、先生方が一言、補足を添えることで、子どもたちの印象に強く残り、都道府県に関する

知識の定着がはかれると考えます。

たとえば、子どもたちが青森県の「有名なもの」をさがすために「東北地方」の拡大図を調べて、絵記号から「りんご」という回答をした場合、その絵記号をクラス全員で確認し、さらにまわりの色に注目して果樹園が広がっていることに気づかせます。4年生最初の社会科の授業で身につけた「地図の色から土地のようすを読みとる」という技能が実際の単元学習の場面で生きてくるわけです。

■ 社会科各単元での地図帳活用を

最後にこれからの広報室の活動・目標について述べさせていただきます。一人でも多くの先生方に「4年生になって最初の社会科の授業で地図帳の基本的な活用法を指導していただく」ことはもちろんですが、社会科各単元での地図帳活用法を先生方に紹介してまいります。各単元の学習において、子どもたちが、必要に応じて地図帳から情報をさがすことができるよう、サポートをしていきたいと考えています。

本誌と同送いたしました冊子『地図帳活用の手だて』では、既刊の『地図帳活用はじめの一步』『地図帳でとらえる47都道府県』では、紹介できなかった5年生、6年生の各単元での地図帳を活用した指導案を紹介しています。授業全般で地図帳を使うのではなく、活用が有益な場面に絞って指導案を示しています。本冊子を通して「農業と自然との関わりがわかった」「歴史の舞台となった土地のようすがわかった」といった発見をしていたら幸いです。

「子どもたちが、4年生で『地図帳の基本的な活用法』を身につけ、6年生までの各単元で、必要に応じて地図帳を活用する」ことを目標に広報室では活動を続けてまいります。

本文中で紹介しました冊子は弊社ホームページよりご覧いただけます。
<http://www.teikokushoin.co.jp/howto/index28.html>